



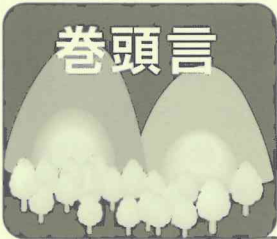
子ども樹木博士 ニュース

2011 - 3

No.42

子ども樹木博士認定活動推進協議会

巻頭言



エメラルドの夢



子ども樹木博士認定活動推進協議会 会長 木平 勇吉
(東京農工大学 名誉教授)

これは磯野宏夫画伯の作品集の名前です。日本の里山から原生林、海外の森の風景と野生動物の生きる姿が描かれています。ページをめくるたびにため息が出るような素晴らしい森の姿があざやかに現れます。現実の森ではありませんが生きものが共存する雰囲気満ちています。鬱蒼とした天然林、整然とした人工林、草原を駆ける野生動物、静寂な雪山や冬山の輝きが迫ってきます。裏山の雑木林からアジアの多雨林やアマゾンの熱帯林、サバンナまであざやかな風景が磯野画伯の独特の技法で描かれています。

この知らない森の絵からは憧れの世界を体験できます。行きたい、雰囲気を体験したい衝動に駆られます。このように「エメラルドの夢」は自然への憧れがモクモクとわきあがる玉手箱です。森を知らない子どもは目を見張り、環境に興味を持つ人は絵の中に森の生態系を見つけることができます。

今、自然環境を守るために「生物多様性」をはじめ多くの専門用語が使われています。しかし、磯野画伯の絵からはそのような用語を知らなくても自然や環境の多様さと大切さを知ることが出来ます。難しい専門用語が並ぶ文章よりも「エメラルドの夢」からは森の価値を直感することが出来ます。

磯野画伯は森林の専門家ではありません。しかし、制作は慎重です。まず、森の現場に出かけて実物の雰囲気を中心に焼きつけるのでしょうか。そして写真も写

します。その時に感じた色や音や風や動物で絵は構成されます。さまざまな自然の姿を題材にして、新しいイラストがキャンバスの上に組み立てられます。樹木、水、土などが配置されて、そこに生き物が集合しエメラルドの世界が作られていきます。人と自然が仲良く暮らす森のイメージが生まれるわけです。もちろん、これらの制作過程はわたしの推測ですが、なぜか、それぞれの絵には、森林生態系の仕組み、あるいは森林の原理が埋め込まれています。素晴らしくレベルの高い国際的な「環境読本」です。世界中の大人も子どもも楽しく、そして深く「読める」本だからです。

「子ども樹木博士」は自然に親しむ機会であり、入り口です。理科や生物の勉強ではなく自然になじむ活動です。樹木の葉や花や幹に触れて手にとり、においを嗅ぎ、味わうことです。そこで身近な自然を感じるということです。このような環境を大切にする気持ちを育てる樹木博士の目的を思いかえして、これからの活動を続けたいと思います。

「エメラルドの夢」は美しい絵を通して自然に親しむことが出来ます。子ども樹木博士はフィールドを散策することによります。方法は違いますが気持ちは共通するところがあります。今年はエメラルドの初夢もぜひ見てください。なお、「磯野宏夫」をキーワードとして検索することで「夢」に出合えます。

【目次】

巻頭言	エメラルドの夢	子ども樹木博士認定活動推進協議会 会長 木平 勇吉	1
特集 I	万葉集と樹木 (3) —ヤマブキ, スギ—	(社) 林木育種協会 理事 宮田 増男	2
特集 II	冬から春に向かう森を歩いて	森林インストラクター 吉村 妙子	3
事例報告	木と友だちになろう！子ども樹木博士	関東森林管理局 指導普及課 松井 裕子	4
シリーズ I	身近な生き物たちのミラクルな世界 (5)	(社) 全日本木材市場連盟 専務理事 中山 義治	5
シリーズ II	東南アジアの木々たち (11)	自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史	6
子ども樹木博士質問コーナー	茨城県植物園 緑のインタープリター・森林インストラクター 堀内 孝雄		7
事務局だより	平成 22 年度の認定活動の実施状況等		8



万葉集と樹木 (3)

—ヤマブキ、スギ—



(社) 林木育種協会 理事 宮田 増男

奈良盆地の東の端に、古墳時代に完成した我が国最古の古道といわれている「山の辺の道」があります。この道は、桜井市の三輪山のふもとから天理市を經由して奈良市の春日山のふもとまでの山沿いを南北に通じています。そして道路沿いには、多くの古墳や神社仏閣、万葉の歌碑などが点在しており、歴史街道そのものですが、近年は、自然を満喫できるハイキングコースとしても、脚光を浴びています。

天理駅と桜井駅のほぼ中間点には、「天理市トレイルセンター」という展示設備も備えた休憩施設があります。春や秋には、時々、このセンターを拠点に、持参した昼食のおにぎりを食べたり休憩をしたりしながら、近くを散策しています。また、道路脇では、秋にはカキ、春にはハッサクなどが安く売られており、それらを買って帰るのも楽しみの一つです。

ところで、ここでは、「山の辺の道」に関する樹木のうち、ヤマブキとスギを取り上げてみます。

ヤマブキ (山吹)：バラ科ヤマブキ属の落葉低木。万葉集には17首が詠われています。そのうちの次の1首の歌碑が桜井市内の玄賓庵の北側にあります。

山吹の立ち儀ひたる山清水汲みに行かめど道の知らなく (高市皇子) 卷第2 - 158

訳：山吹の花が美しく飾っている山の清水。その水を汲みに行こうと思うのだが、その道を知らぬことよ。



この歌は、天武天皇と額田王の子の十市皇女がなくなったときに、その死を悼んで高市皇子が詠んだものです。

スギ (杉)：ヒノキ科 (以前はスギ科に分類。) スギ属の常緑高木。スギは、万葉集には12首詠まれています。そして、9首までが神木と

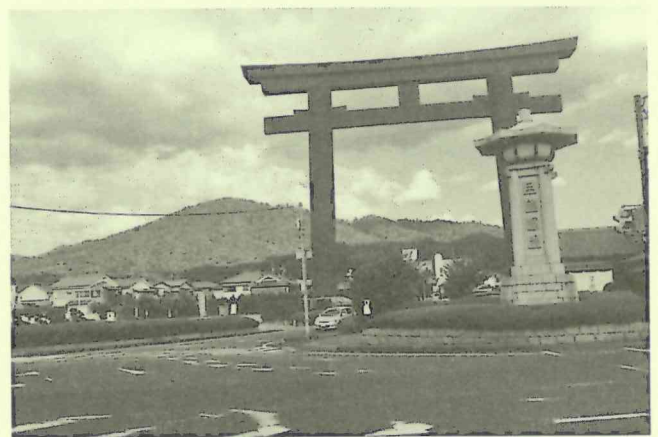
して詠まれており、そのうち、5首が三輪の神、3首が石上の布留の神に係るものです。

スギは、樹相が細長い円錐形で、寿命が長く、うっそうと繁る巨木に神の息吹を感じ、神の寄りつく樹木として古代から尊敬崇拝されてきました。特に、古来神の代表とされてきた桜井市内の三輪明神(三輪神社、大神神社ともいう。)の神木は有名です。

山の辺の道沿いにあり、かつ、有名な神社である三輪明神と天理市内の石上神宮に係る神木を詠んだ歌2首を紹介します。なお、三輪明神は日本最古の神社の一つといわれており、また、本殿がなく背後にある三輪山そのものが御神体となっています。

味酒を三輪の祝が斎ふ杉手触れし罪か君に逢ひ難き (丹波大女娘子) 卷第4 - 712

訳：味酒よ、その三輪明神の神官が大切に祈り守る神杉に手を触れた罰であろうか、なかなかあなたに逢うことができない。



三輪明神の大鳥居と三輪山

石上布留の神杉さびびて恋をも我はさらにするかも (柿本人麻呂) 卷第11 - 2417

訳：石上神宮の神杉、そのように私は神々しく年古りてしまつて、恋をまたさらにすることであるよ。

(参考文献)

- ・多田一臣訳注：万葉集全解 1, 2, 4, 筑摩書房, 2009
- ・山田卓三・中嶋信太郎：万葉植物事典「万葉植物を読む」, 北隆館, 1995

特集Ⅱ

冬から春に向かう森を歩いて



森林インストラクター 吉村 妙子

この冬は例年よりも寒い日が多く、雪国ではしばしば豪雪の被害もあって、大変なご苦労だったと思います。私が住んでいる茨城では晴天続き、朝は冷え込んで公園の池に厚い氷が張り、日中も冷たい空気に耳や指先がじんじんと冷えました。暦だけではなく、本当に春らしい日が待ち遠しいです。

といっても、冬から春にかけての季節に森を歩けば、この時期ならではの観察を楽しむことができました。草が枯れ、落葉樹が葉を落とし、花も虫も少ない冬枯れの頃ですが、「この時期だからこそ見られるもの」や「ほかの季節よりも見えやすいもの、楽しめること」は魅力十分で、防寒をしっかりと出かける価値がありました。

「この時期だから見られるもの」で、この冬、幸運にも遭遇できたのは“シモバシラ”でした。シソ科のシモバシラの地上部が枯れて、茎の割れ目から四方向に霜柱が伸びた「氷の花」の“シモバシラ”。枯れたように見えても根は生きていて水を吸い上げる植物の生命力と、氷点下の気温がうまくからんでできる見事な自然の造形です。愛好家がインターネットで観察情報を発信しあって効率的に見に行くこともあるそうです。少し前にはテレビ朝日の「ナニコレ珍百景」でも登録されて、美しく不思議な自然現象は、愛好家や専門家だけでなく多くの一般の人にも惹きつけるものだなあ、と感心しました。

シモバシラは冬限定で咲く“花”ですが、枯れ残った花も味わいがあって、なかなかきれいです。コウヤボウキ、カシワバハグマ、ヤマアジサイ、ガンクビソウなどが、天然のドライフラワーになっていました。キンポウゲ科のつる植物のセンニンソウも、果実の先が仙人のひげのようにふわふわと伸びていて、名前の由来が分かります。

「この時期に見えやすいもの」といえば、樹木の形や枝振り、樹皮でしょうか。特に広葉樹は「葉の違い」という情報がないため、それ以外の部分がよく見え

す。ちょっと離れたところから眺めると、「こんなにいろいろな幹肌があったのか」、「木によって枝振りがずいぶん違うものだ」と新鮮な驚きを感じられます。今度は近づいてよく見ると、さまざまな姿かたちの冬芽がついています。冬芽は、実は夏の終わりから作られ始めて、葉を落とした秋頃には既にできているものも多く、植物の準備万端ぶりが分かります。うれしいことに、最近では樹皮や冬芽の図鑑がたくさん出ており、冬の樹木観察が一層楽しみやすくなりました。また、自分で撮った写真をインターネットで公開している人も多く、うまく使えばネット図鑑として大いに役立ちます。冬場の落葉樹は樹種が分かりにくいですが、周りの落ち葉と樹皮や冬芽を照らし合わせて推理するのはクイズとしても面白いですし、たとえ名前が分からなくても、冬芽や葉の落ちた痕の「葉痕」は形も様々で、観ていると想像力をかきたてられて楽しいです。



秋から冬を越して春先まで残っていたオニドコロの果実

こうしてみると、冬枯れの季節にも樹木や草の観察を楽しんでおかないと、もったいないですね。私にはあまり詳しくないのですが、冬鳥の観察にもいい時期ですし、雪の降った後は動物の足跡やふんなどのアニマルトラックを見つけやすいので、この時期の自然観察を堪能しながら、春本番を待ちたいと思います。

事例 報告

木と友達になろう！子ども樹木博士



関東森林管理局 指導普及課 松井 裕子

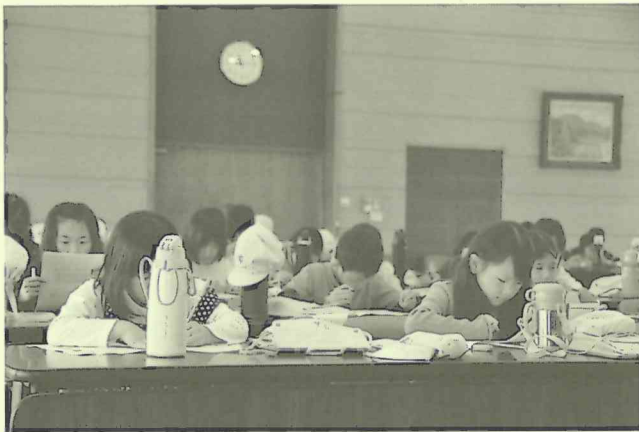
森林に親しむきっかけづくり

森林に出かける理由や森林に対する興味は、人それぞれです。

関東森林管理局及び高尾森林センターでは、未来を担う子どもたちが森林へ興味をもち森林の大切さなどについて関心や知識を深めるきっかけづくりとなるように、「子ども樹木博士」を実施しています。その取り組みについてご紹介します。

関東森林管理局と高尾森林センターでの取組

今年度は、関東森林管理局では地元の2つの小学校の3年生と4年生の87名、高尾森林センターでは夏休みイベントに申し込みのあった14組36名の親子を対象として「子ども樹木博士」を実施しました。



室内で認定試験。みんな真剣な表情です。

子どもたちの反応

今年度実施した「子ども樹木博士」で関心の高かったもの（子どもたちが興味を示したもの）をいくつかご紹介します。

① 視覚に訴えるもの

- ・トチュウ：葉っぱを水平にちぎると糸のような粘液が出て葉が繋がっているのを見て、「マジック（手品）みたい！」と子どもたちは興味深げで、実際にやって楽しんでいました。
- ・イロハカエデ：種がプロペラのようにくるくる回りながら飛んでいく様子や樹木の生き残り戦術にびっくりしたようでした。

② 本能に訴えるもの（食べられる。食べられない（毒）。）

- ・ラカンマキ：赤（果実）と緑（種）のこけしのような見た目も愛らしい実が、ちょうど熟して食べ頃でしたので、「この実は食べられるよ」と説明するや否や、早速口へ。普段口に入っているお菓子や果物に比べたら、微かな甘みなのに「甘い。おいしい。」「はずれた～（甘くない）」・・・。
- ・アセビ：「アセビ」の毒の話に興味津々でした。「毒でフラフラして馬が酔ったみたいになるから、「馬酔木」と書くんだよ」などと話すと子供たちは真剣な表情でした。感想文にも、小学生には難しい漢字にもかかわらず、「馬酔木」としっかりと記入している子がたくさんいたことに驚かされました。

補足ですが、アセビのように毒のある樹木もあるので、「分からないものは食べてはいけませんよ」との説明は必ずしています。

子ども樹木博士を終えて

「子ども樹木博士」のプログラムは、半日～1日で開催しますが、子どもたちから寄せられた感想には、「木の名前が覚えられて楽しかった」、「木や花のことをもっと知りたい」、また、散策の時に「ホオノキは、春には甘い香りの花が咲くよ」、「クヌギは、夏になると幹にカブトムシとかの昆虫が集まるよ」、「秋には、イロハモミジの葉がきれいに紅葉するよ」、「冬には、多くの木が葉っぱを落として丸坊主になるよ」と四季折々の木の表情の違いを話したところ、「じゃあ、春になったら、この木をまた見てみるよ」等々の反応がありました。

最後に、森林環境教育の一環として実施しているこの「子ども樹木博士」の取組が、①「森林」が豊かな体験を提供する「体験の場」であること、②「森林」が「森林」に対する正しい知識を得る「知る場」になること、③「森林」が生活や日本人との関わりをつくりあげていく対象として「かかわりの場」となることなどを「気づかせるきっかけづくり」となることを目指しています。

シリーズ I

身近な生き物たちのミラクルな世界 (5)

—天候異変が小さな生き物の生活を直撃—

(社) 全日本木材市場連盟 専務理事 中山 義治

春になると、わが家の小さな畑の生垣にはアブラムシの姿が見られるようになります。セミが植物の道管液を吸うのに対して、アブラムシは植物の篩管液を吸って生活しているそうです。体長1ミリほどのアブラムシの幼虫が、細い口吻をグミの新芽にどのようにして刺して吸汁するのか、とても不思議に感じられます。



畑のビックリグミは、毎年春に新葉や花芽をつけ、その後一斉に落葉、落花し、さらに二度目の新芽をつけるということを繰り返してきました。これは、アブラムシが口吻を刺して吸汁する際媒介するすす病が原因ではないかと思えます。

天敵のテントウムシは、餌のアブラムシの大量発生期に、自分の幼虫を孵化させる作戦をとっているようです。アブラムシのコロニーの近くには、大きさ1ミリ程度のテントウムシの卵が見つかります。

しかし昨年春のグミは、新芽が落葉しないどころか花芽までが順調に成長しラッパ型の黄色い花を満艦飾のように咲かせました。ミツバチが蜜を吸う姿が見られたのでこれが功を奏したのか、自家不結実性とされるビックリグミに初めて30粒ほどの大きな甘い実がなりました。知り合いの植木屋さんからも、「今年の緑化木の新緑は綺麗だ」という驚きの声を聞きました。少なくとも私の住む埼玉ではグミやムクゲに発生するアブラムシの繁殖が抑制されたため、すす病が発生せず鮮やかな新緑が見られることが多かったのではないかと考えます。

原因として思い当たるのは昨年春の天候異変。春の

天候の特徴を表す言葉に「三寒四温」があります。しかし昨年のは関東地方の2月から4月の天候は、そんな生易しいものではなかった。鎌倉の鶴岡八幡宮の大イチョウが倒れたニュースに象徴されるように突然強風が吹き、都内には数回の降雪に見舞われ、さらに桜が満開の4月18日の朝は記録的な遅雪が積もるなど大荒れの天候でした。雪化粧した満開の桜の景色に思わずカメラを取り出したほどです。

グミ属に冬寄生するアブラムシとしては、ゴボウクギケアブラムシやタデクギケアブラムシが知られています。グミ属の樹木に卵を産み付け越冬に成功したアブラムシが、幼虫になってから寒さの直撃を受けて死滅するというのは皮肉な結果です。気候変動の激しさに、それまでアブラムシが長い時間をかけて身につけてきたライフスタイルが適応できなかった。素人目にはそう見えますが、果たしてこれは正しいのか。

野菜を育てるからには、できる限り農薬の使用を抑制してみようと思い立って10年。野菜を育てながら、畑に発生する虫を観察し、それをささやかなブログ(◆)に記録してきました。

できるだけ間違いが少ないように心がけているつもりですが、身近にあるミラクルの世界の奥の深さは、「群盲象を撫でる」の喩えどころではありません。

この稿は、今回で最終回とさせていただきます。拙文を甘受頂いた皆様に感謝申し上げます。

◆家庭菜園ブログ「土と生き物たち」

(<http://d.hatena.ne.jp/yoshicom/>)



シリーズⅡ

東南アジアの木々たち (11) —「桜」と似て非なるサクラ—



自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

日本は、世界的に見ても植物の種類数が豊富な美しい国です。けれども、東南アジアを訪ねると、全く馴染みのない樹木が生えていたり、時に「和名」が付いていない南国の植物にすら出会います。

日本のように、判らない時は近くの本屋さんや図書館へ行って、日本語で書かれた「植物図鑑」で調べる…と云う訳にもいきませんから、さあ大変。たった1種類の本の素性がちっとも判りません。

こんな風に、日本語の名前が付いていない「外国の

植物」を知ろうとする時に、とても大切な手掛かりを与えてくれるのが、世界共通の名前として用いられる「学名」(がくめい)です。

ある特定の生物の「名前」を調べようとするのを「同定」(どうてい)と呼んでいます。同定には、「標本」を用いたり、写真と解説文の載った「図鑑」や「インターネット」等を用いたりします。生物を分類する専門家や研究者ではないので、一般の方達の場合、多くは図鑑やネットを用いて同定を行うことになるでしょう。



左から3枚は南洋桜、右端はテイキンザクラ

図鑑やネット上では、世界中の植物を掲載したものが数多く見られます。例えば、「ナンヨウザクラ」を調べてみると、「南洋桜」と云う桜の花そっくりの木と真っ赤な花色の木に辿り着きます。

でも、日本で見る「桜」とは少し印象が異なるので学名を見ると、「桜」(バラ科)とは全く違う仲間であることが判ります。そして、白い花と赤く丸い果実が

つく方が本来の「南洋桜」(ナンヨウザクラ科)と呼ばれる樹木で、赤い花の方は、南洋桜の別名を持ち、沖縄方面でもよく見掛ける「テイキンザクラ」(トウダイグサ科)であることが判明していきます。もし「学名」がなければ、両者はず〜っと同じ樹木か仲間だと勘違いしてしまうところです。



南洋桜の樹幹



緑陰樹として植えられたハノイの南洋桜

子ども樹木博士質問コーナー

茨城県植物園 緑のインタープリター
森林インストラクター 堀内 孝雄



これまでに寄せられた多くの質問の中から、一般的、共通的な質問についていくつか回答を掲載します。

Q 街路樹等のアカシアは蜂蜜の蜜源植物といわれますが、最近が増えすぎて困るとも聞きます。アカシアはどんな樹木ですか。

A それはニセアカシア（マメ科ハリエンジュ属）です。学名はロビニア・プセウドアカシアで、種小名がそのまま使われています。プセウドは偽りの意味です。北アメリカ原産の樹木で、1873（明治6）年にわが国に渡来したといわれています。公園樹木や街路樹のほか、はげ山や荒廃地復旧等の治山・砂防用として広く用いられ、緑化植物として役立ってきました。花は香りがよく、アカシアの蜂蜜として良質な蜜源植物として知られています。

「アカシアの雨がやむとき」、「アカシアの大連」など、詩歌や文学に表れたアカシアは皆このニセアカシアです。今でもフサアカシアやギンヨウアカシアなどの本物のアカシア（ネムノキ亜科アカシア属）の樹木と混同されることがあります。

最近、ニセアカシアが各地の川原や川岸、荒地等で猛烈な勢いで野生化しており、伐採作業が行われたとの報道もあります。現在、ニセアカシアは、外来生物法により、要注意外来生物のうちの「別途総合的な取組みを進める外来生物（緑化植物）」に選定されています。



明治初年に植えられた水戸市・偕楽園のニセアカシア

Q 葉を落とした冬姿のサクラの枝に、小枝が密生したほうき状の部分をいくつも見つけました。てんぐ巣病というそうですが、どんな病気ですか。ほかの樹木にも、このような病気がありますか。

A サクラのてんぐ巣病です。公園等に植えられているソメイヨシノに多く見られます。ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの種間雑種で、葉の出る前に花をいっせいに咲かせるという優れた面とともに、てんぐ巣病に弱いことが欠点として現れているようです。

サクラのてんぐ巣病は、糸状菌（カビ）の一種のタフリナ菌によって発生する病気です。この病原菌は、胞子が空气中に飛散して伝染すると考えられています。枝からほうき状に小枝が出て、あたかも天狗の巣のように見えるので、てんぐ巣病と呼ばれます。病気にかかった部分は早めに葉を開き、この部分は花の時期になっても花をつけません。各地のサクラの名所で、サクラを衰退させている大きな原因の一つとなっています。

サクラのてんぐ巣病の防除は、冬の間病巣の枝の膨らんだ下の部分から切除することです。切除した部分には、殺菌剤入りの癒合剤を塗付することが必要です。

てんぐ巣病は、サクラのほか、ツツジ、キリ、ササ、タケ、ウラジロモミなどの樹木でも見られます。



サクラのてんぐ巣病（ソメイヨシノ）

● ● 事務局だより ● ●

◆平成 22 年度の認定活動の実施状況（平成 22 年 11 月 16 日～平成 23 年 2 月 14 日に報告等を受けたもの）

実施月日	実施団体等	都道府県	募集人数	参加者数	摘要
5. 3	森林インストラクター茨城	茨城県	30	16	小中学生親子
5. 5	エコミュージアムあいち	愛知県	30	23	子どもほか
5.24	エコミュージアムあいち	愛知県	30	28	子どもほか
6.20	エコミュージアムあいち	愛知県	30	23	子どもほか
7. 4	東京大学大学院 樹芸研究所	静岡県	30	30	小学生親子
7.25	会津高原チロリアンビレッジオーナー会	福島県	40	40	小中学生
7.28	NPO 法人 やまぼうし自然学校	長野県	40	40	小学生親子
8. 1	(独)森林総合研究所林木育種センター関西育種場	岡山県	40	40	小中学生親子
8. 1	エコミュージアムあいち	愛知県	30	14	子どもほか
8. 8	NPO 法人 森林インストラクターしずおか	静岡県	31	31	小中学生親子
8. 8	エコミュージアムあいち	愛知県	110	110	子どもほか
8.22	NPO 法人 やまぼうし自然学校	東京都	20	20	小学生親子
9.27	関東森林管理局	群馬県	21	21	小学 3,4 年生
10.17	エコミュージアムあいち	愛知県	40	22	子どもほか
11. 7	森林インストラクター茨城	茨城県	30	14	小中学生親子
11. 5	関東森林管理局	群馬県	66	66	小学 3 年生

◆「子ども樹木博士のための樹木ガイド」ができあがりました

新しい「子ども樹木博士のための樹木ガイド」ができあがりました。前回の No.41 号でも紹介しましたが、協議会ではこれまでに 2 冊の樹木ガイドを作成しています。最初のは平成 13 年作成の樹木ガイドで B5 判 15 頁・60 樹種掲載、2 冊目は平成 19 年に作成したもので A5 判 58 頁・100 樹種掲載です。

今回作成されたものは A5 判 85 頁で、150 樹種の葉や木肌、花や実等の写真、その名前のいわれや分布、利用のされ方等が掲載されています。価格は、これまでのものより割安感のある 1 冊 500 円（税込・送料別）です。購入を希望される方は、ホームページをご覧ください、電話等でお申し込みください。

◆認定活動の実施結果のご報告をお願いします

当協議会の事業の節目として、平成 22 年度も残りわずかとなりました。実施団体等の皆様へのお願いですが、本年度の認定活動の実施結果につきましてご報告いただければ幸いです。報告用紙はホームページからも word の用紙をダウンロードできます。報告用紙がない場合は、①実施団体名、②実施年月日、③募集人数・参加者数、④対象者・実施場所等を記載したメモで結構ですので、FAX、メールなどによりお送り願います。

(O)



子ども樹木博士ニュース

2011 年 3 月 1 日 No.42

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6 階

(社) 全国森林レクリエーション協会内

TEL : 03-5840-7471 FAX : 03-5840-7472

E-mail : kodomohakase@shinrinreku.jp

URL : <http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html>

<http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html>